

Immediate Press Release 2013.4.1

梅佳代展 UMEKAYO

Kayo Ume : UMEKAYO

謹啓 春暖の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対して、格別なご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年のプレスリリースでもお知らせしましたように、当館では、2013年4月13日[土]より「梅佳代展 UMEKAYO」を開催致します。

なにげない日常のなかに潜んでいるさまざまな光景を独自の視点から切り取ってみせる写真家・梅佳代。天性のコミュニケーション能力と絶妙の距離感、そして動物的ともいえる動体視力を武器に、梅佳代は果敢にシャッターを切ります。ありそうでありえない光景、笑いと驚き、そしてほんのすこし怖さはらんだ瞬間まで、梅佳代が見せる世界は、かつてないユニークさでわたしたちの眼を惹きつけます。その作品は、写真は「ホントがそのまま写っている」という素朴かつ根源的な写真観に支えられ、また対象への深い共感と批評的な距離を内在させています。その鮮烈なイメージは、写真家本人の飾らぬ人柄と権威にとらわれないアナーキーな言動とあいまって、写真界に新風を吹き込み、幅広い層の人々の支持を集めています。

本展覧会は、いま若手のなかで最も熱く、幅広い視線を浴びる写真家・梅佳代の美術館における初の個展です。写真家の代表的なシリーズを網羅し、数々の未発表作をまじえて大胆に再構成した作品約390点で、梅佳代の全貌をはじめて明らかにします。展示は東京オペラシティ アートギャラリーの巨大空間の特性にあわせ、ときにダイナミックに、ときに親密に展開し、梅佳代の写真表現の多様性とそれらを貫く今日性を浮かびあがらせます。

つきましては、本展覧会の概要と展示構成をご紹介しますので、「梅佳代展 UMEKAYO」を貴媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

〔開催概要〕

展覧会名： 梅佳代展 UMEKAYO
会期： 2013年4月13日[土] - 6月23日[日]
会場： 東京オペラシティ アートギャラリー
開館時間： 11:00-19:00 (金・土は 20:00 まで/最終入場は閉館の30分前まで)
休館日： 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日、ただし4月30日は開館)
入場料： 一般 1,000(800)円/大・高生 800(600)円/中・小生 600(400)円

- * 同時開催「収藏品展044 難波田龍起の具象」、「project N 52 秋山幸」の入場料を含みます。
- * 収藏品展入場券200円(各種割引無し)もあり。
- * ()内は15名以上の団体料金。その他、閉館の1時間前より半額、65歳以上半額。土・日・祝日の中・小生無料。
- * 障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ： 03-5353-0756 ウェブサイト <http://www.operacity.jp/ag/>

主催： 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団/産経新聞社
協賛： 日本生命相互会社
技術協力： キヤノン株式会社
協力： 相互物産株式会社
企画協力： pdash

〔展示構成〕

「朝起きたときから夜寝るまで 全部がシャッターを押す範囲」

梅佳代

梅佳代の作品は、ストリートスナップから、家族や身近な隣人たちをとらえたポートレートまで、多岐に渡ります。本展では、日々生み出されるそれら夥しい数のショットから、未発表を含む作品約390点を厳選し、6つのセクションによって紹介します。



〈うめめ〉より 2004
© KAYO UME

① シャッターチャンス Part 1

梅佳代は、ストリートスナップをその活動の重要な柱としています。構図やプリントでの調整など「作品」としての完成度にはまったく関心をおかず、日常のなかで日々生まれている驚くべき瞬間を「報道」のつもりで追っているといいます。その着眼点はきわめてユニークなもので、日常のなかのちょっとしたアクシデントを笑いや驚き、恐れや共感とともに切り取るセンスは他の追随を許しません。またそれらのイメージには、不思議と心のなかに残り続ける何かがあるようにも感じられます。



〈ウメップ〉より 2009
© KAYO UME

② 女子中学生

専門学校時代に仲良くなった近所の女子中学生たちを学生寮の自室に招いて撮影した初期作品で、約10年振りの公開となります。いまだ青春のさなかにある梅佳代と思春期の少女たちは、性に対する好奇心を共振させながら、アナーキーであっけらかんしたパフォーマンスでそれを表現しています。「自分も10代だったから撮れた」と本人が言うように、これは写真家の青春の記念碑であると同時に、梅の知られざる原点をさぐる手掛かりでもあります。とりわけ、身近な他者とのコミュニケーションを起点として作品を生み出す梅佳代の方法がすでに見て取れることは、興味深い事実です。



〈女子中学生〉より 2000-2001
© KAYO UME

③ 能登

梅は、石川県柳田村（現能登町）で生まれ育ちました。高校時代に写真を撮り始めて以来、また大阪、東京と活動の拠点を移して現在に至るまで、梅佳代はつねに故郷の人々を撮り続けてきました。とりわけ近年は、母校の生徒たちや身近な隣人たち、あるいは日々出会う現地の人々にストレートな視線をむけ、数々の魅力的なポートレートを生み出しています。それらは、「能登はやさしや土までも」の言葉でも知られるこの土地の人々の気風や風土を、さわやかな光と風にのせるようにして伝えています。このシリーズは、展覧会と同時期に新作写真集としても発表される予定ですが、展示では写真集とはことなるセレクトで、梅の新境地を伝えます。



〈能登〉より 2009
© KAYO UME

④ じいちゃんさま

梅は、10数年来、自分の祖父と祖母、妹や飼い犬たちを撮り続けてきました。それらは高校時代に、「じいちゃんは撮つとるうちは死なんと思った」のがそもそもの始まりだといいます。そこには、何気ない日常を淡々と、しかし愛情を込めてシャッターを切り続ける梅の姿がありました。もちろん、笑いや驚きを絶妙の間合いで捉える、梅ならではの視点や対象との関係性も鮮明に写りこんでいます。きわめてパーソナルなコミュニケーションから発して、だれもが共感する普遍性に達したこのシリーズは、2008年に『じいちゃんさま』として発表され、大きな反響を呼びました。今回はその後現在にいたるまでのショットも加え、あらためて日々の営みと年月の積み重ねを捉えたイメージの連なりとして紹介します。



〈じいちゃんさま〉より 2007
© KAYO UME

⑤ 男子

大阪の専門学校時代、路上で仲良くなった小学生たちの「バカで無敵な」パワーを活写するシリーズ。梅を「うめかよー」と慕う男子たちは、同時にこちらの思惑など歯牙にもかけない野放図なパフォーマンスを繰り広げます。とはいえ、そこからは仲良くなった梅佳代に見てもらいたい、撮ってもらいたいというひそかな期待と喜びもみずみずしく伝わってきます。ある年代の少年たちだけが示す独特の感情と心の機微が、被写体に共感しつつも絶妙な距離を保つ、梅の冷静なカメラアイによって、鮮やかに捉えられています。それらはまた、梅と被写体との絶妙の「コラボレーション」によって生まれた奇跡的なイメージともいえるでしょう。



〈男子〉より 2000-2002
© KAYO UME



〈男子〉より 2000-2002
© KAYO UME

⑥ シャッターチャンス Part 2

展覧会の掉尾では、ふたたび梅の活動の根幹をなすストリートスナップの数々を細心のセレクトで紹介します。梅の作品は「笑い」という観点で語られることが多いですが、本人は笑ってもらうために撮っているのではなく、自分のなかで「はっ」とさせられる瞬間をひたすら追っているだけだと言います。また構図には関心がないとも語っていますが、実は対象に果敢に迫る梅自身の動物的な身体性が、そのフレーミングによってダイレクトに伝わってくる場合も多いようです。そして通常なら被写体にならないような場面とその独特の間合いからは、単なる状況の説明とは異なる、見る者の想像力に働きかける独特の力が感じられます。それらは、日常におけるさまざまな営みに新たな眼を向けるきっかけとなると同時に、写真というものの不思議さと限りない可能性を改めて感じさせてくれることでしょう。



〈うめめ〉より 2003
© KAYO UME

【関連企画】

A. 梅佳代アーティスト・トーク

日時：

① 2013年4月18日[木] 19:15 —

② 2013年4月25日[木] 19:15 —

会場：東京オペラシティ アートギャラリー [展示室内]

料金：当日の展覧会入場券が必要です。(整理券を取得する際にご呈示ください。)

定員：各回 50 名、予約不可・当日先着順 (17:30 から入口にて整理券配布、おひとり1枚のみ。)

B. 梅佳代スペシャル対談

ゲスト：祖父江慎 (グラフィックデザイナー)

日時：2013年5月9日[木] 19:30 —

会場：東京オペラシティ アートギャラリー [展示室内]

参加費：無料 (展覧会ご観覧には別途チケットが必要です。展覧会ご観覧は 19:00 まで、チケット販売は 18:30 まで。)

定員：70 名、下記の要領で往復はがきによるお申し込みが必要です。

【梅佳代スペシャル対談：応募方法】

往復はがきの〈往信用裏面〉に ①参加人数 (1通につき2名まで) ②住所 ③電話番号

④氏名・ふりがな (2名の場合はそれぞれのお名前) をご記入のうえ下記宛先までお送り下さい。

(返信はがきにもご住所・お名前をお忘れなく)

[宛先] 〒163-1403 東京オペラシティ郵便局 私書箱 2502 梅佳代係

[応募受付期間] 3月15日[金] — 4月5日[金] 消印有効

- * 応募多数の場合は抽選となります。
- * 応募はおひとり1回のみ。はがき複数枚でのお申し込みはご遠慮ください。
- * 記入もれの場合は応募無効とさせていただきますのでご注意ください。
- * 入場証の第三者への譲渡・転売は堅くお断りいたします。
- * 頂いた個人情報は入場証送付など本イベントの受講管理の目的のみに使用いたします。
- * 頂いた個人情報はイベント終了後破棄いたします。

■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 福土 【広報担当】 吉田

Tel : 03-5353-0756 / Fax : 03-5353-0776 / Email : ag-press@toccf.com